No.20

救急基金だより

みなさまの善意が「救急基金」を支えています

●救急基金の歩み
●寄付金募集事例紹介
　・横須賀市消防局
　・幡多中央消防組合消防本部
●令和２年度救急基金会計の決算
●救急基金への寄付について

救急基金は、応急手当の普及など救急の振興のために活用されます。

一般財団法人　救急振興財団

救急基金の歩み

応急手当の普及へ向けて

救急救命士制度の発足とともに救急救命士の養成を目的として平成３年５月に設立された救急振興財団は、設立当初より22,732名の救急救命士を誕生させるなど、救急体制の充実及び応急処置による心停止傷病者の救命効果の向上に大きく貢献しています。

しかし、なお一層の救命効果の向上には救急救命士の現場到着前の市民による応急手当が重要であり、また、そのような応急手当の習得の要望も高まっています。

そこで、こうした課題に対処するために、救急振興財団では平成４年より、皆様から寄せられた寄付金を基金として積立て、その基金を用いて応急手当講習会で使用する資器材の寄贈や応急手当の普及など、救急の振興に役立つ事業を行っています。

事業の概要

＜平成５年度～平成８年度＞
応急手当指導員養成講習会の開催
＜平成９年度＞
ポスター及び救急基金箱の作製
＜平成10年度～令和３年度＞
消防機関が市民向けに行う応急手当講習会で使用する資器材の寄贈

寄付金募集事例紹介

横須賀市消防局

横須賀市消防局は、神奈川県の三浦半島の中央部に位置する横須賀市と三浦市で構成され、管轄面積は132.87㎢、東は東京湾、西は相模湾に面した首都圏近郊でありながらも、緑に覆われた丘陵や海に市街地が一体となった魅力ある地域です。

また管内には、米海軍の基地も所在しているため、米海軍人からの救急要請にもグローバルに対応しています。

応急手当講習会は普通救命講習会、上級救命講習会、予防救急講習会等を実施するほか、ラジオ放送局のFMブルー湘南に「消防最前線119」という消防が情報を発信するコーナーがあり、その場を活用して応急手当や救急講習会について広報を行っております。

また「ケガに対応する応急手当を学びたい。」という市民からの要望を受け、家庭内や職場内で起こりうるケガを想定し、適切な処置を取得できるよう「外傷救護法講習会」の実施や、小・中学校では「スクール救命教室」等を行っております。

スクール救命教室を授業の一環として開催することにより、小･中学生のうちから命の大切さや応急手当の重要性について学習することができます。

小学校では、参加者１人につき１つのCPRトレーニング機（あっぱ君）を使用して、45分の応急手当の基本を講義し、中学校では心肺蘇生法訓練用人形（リトルアン）を使用し、100分の講習時間で普通救命講習と同等の内容の心肺蘇生法を講義しています。

受講後、生徒達からは「楽しかった」、「万が一のときには今日のことを思い出して活動したい」といった感想の手紙がありました。

実際に2019年７月にはスクール救命教室を受講した小学５年生の男児が家庭で突然意識を失い心肺停止状態になった父親（当時42歳）に胸骨圧迫を一人で６分間も継続して行い、見事、社会復帰させるという事案があり、心肺蘇生法を行った男児には市長から感謝状を贈呈されました。

今回寄贈した資器材も各種講習会で活用頂いているとのことです。このように地域の応急手当の普及に熱心に取り組まれている横須賀市消防局の皆様に感謝申し上げるとともに、寄贈した資器材をご活用頂ければ幸いです。

寄付金募集事例紹介

幡多中央消防組合消防本部

幡多中央消防組合は、高知県西部に位置する四万十市・黒潮町の２市町で構成され、消防本部のもとに、２消防署、１分署で消防行政を行っています。圏域は三方を山で囲まれ、南東は黒潮おどる太平洋に面し、また西部を日本最後の清流と言われる四万十川が緩やかにそして滔々と流れ、海、山、川の美しい自然と温暖な気候に恵まれた地域です。

管内には救急告示医療機関・三次医療機関がなく、高次医療機関搬送にはドクターヘリコプターと連携した救急活動も多く行っており、愛媛県と隣接する地域もあることから、愛媛県への救急搬送も行っています。

例年100件を超える応急手当普及講習（普通救命講習・救急法）を実施しており、受講者は各種事業所・学校教員及び保護者・プール監視員・看護学生など多岐にわたり、中学校及び看護学校においては医師を招いたシナリオ式の救急法も行っています。

地域イベントや自主防災組織訓練等への参加、消防フェアや地震災害等を想定した市民向けの救助研修の開催など気軽に参加できる応急手当普及講習を行っています。心肺蘇生法においては、スマートフォンアプリを使用し、実施者に胸骨圧迫の深さ・リズムの正確さを、目や耳で直に確認してもらうなど楽しく講習に参加して頂いています。

救命率向上のため、一般市民はもちろんのこと、地域の守り手である消防団員に対しての講習にも力を入れ、消防団員を応急手当普及員として養成し、現在、応急手当普及員は13名おり、うち６名が女性消防団員です。

バイスタンダーによるCPRを実施したケースとしては、痰が喉に詰まり心肺停止に至った救急事案がありました。119番通報時、傷病者は多少の呼吸が出来ていたようですが、情報聴取の最中に心肺停止へ移行しました。指令員の口頭指導のもと胸骨圧迫を実施した結果、救急隊到着時には意識も回復し無事社会復帰されました。通報者が普通救命講習Ｉを受講していたことが大きな要因の一つであると思われます。

このように応急手当の普及に積極的に取り組まれている幡多中央消防組合消防本部や地域の皆さまから寄付をいただき心から感謝するとともに、今後のご活躍をお祈りいたします。

みなさまのご寄付で購入しているもの

皆様から寄せられた寄付金を基金として積み立て、その基金を用いて

- 心肺蘇生訓練用シミュレーター
- 応急手当講習用ＤＶＤ
- 応急手当講習テキスト
- ＡＥＤトレーナー

を購入しております。

これらは、全国の消防本部に寄贈され、応急手当の講習会等で活用されています。

＊過去の救急基金だより（ＮＯ．１～ＮＯ．１９）につきましては、救急振興財団のホームページ（ http://www.fasd.jp ）の 救急基金 の項目の中に掲載しています。

■令和２年度救急基金会計の決算（単位：千円）

科　　目	予　算　額	決　算　額	差　　異
Ⅰ 事業活動収支の部			
1　事業活動収入			
① 特定資産運用収入	375	563	△ 188
② 寄付金収入	1,000	808	192
事業活動収入計	1,375	1,371	4
2　事業活動支出			
① 事業費支出			
救急基金助成事業費支出	1,663	1,121	542
事業活動支出計	1,663	1,121	542
事業活動収支差額	△ 288	250	△ 538
Ⅱ 投資活動収支の部			
1　投資活動収入			
① 救急基金取崩収入	1,663	1,121	542
投資活動収入計	1,663	1,121	542
2　投資活動支出			
① 救急基金取得支出	1,375	1,731	△ 356
投資活動支出計	1,375	1,731	△ 356
投資活動収支差額	288	△ 610	898
当期収支差額	0	△ 360	360
前期繰越収支差額	0	360	△ 360
次期繰越収支差額	0	0	0
※令和２年度末救急基金残高		184,437千円	

救急基金へのご協力ありがとうございました

令和２年度は病院、消防本部、法人、個人の方から51件808千円のご寄付をいただきました。

また、救急基金にご協力いただいた次の５消防本部へ応急手当訓練用人形、テキスト等を寄贈いたしました。

・横須賀市消防局
・山鹿市消防本部
・幡多中央消防組合消防本部
・八代広域行政事務組合消防本部
・熊本市消防局

救急基金への寄付について

救急基金への寄付は、「救急基金箱」への募金や「郵便振替用紙」による払込のほか、所定のゆうちょ銀行口座にお振り込みいただくことも出来ます。

詳しくは当財団のホームページをご覧ください。

皆様のご協力をお願いいたします。

財団ホームページ　http://fasd.jp/

お問い合わせ　一般財団法人救急振興財団
救急基金担当　TEL　042-675-9931

救急基金箱が破損等により使用できない場合などのお問い合わせは下記にお願いいたします。

救急基金だよりNo.20［編集・発行］一般財団法人救急振興財団事務局総務課
〒192-0364　東京都八王子市南大沢4-6　☎ 042-675-9931
FAX 042-675-9050